

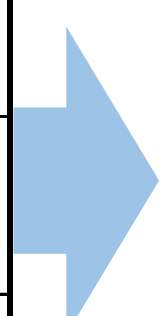
2019年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (ドリームケアふいる とくら園) 作成日時 (2019年 9月 20日)

代表	施設長	本部
印		

H30年度 改善への取り組み	感染症マニュアルの作成・担当者会議の充実
今年度の施設目標	衛生管理、安全対策の徹底・事業所全体で統一した支援に取り組む・保護者との連携を深める

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・教室が人数に対して狭く感じる。 ・職員配置数に余裕があるとよい。 ・園庭がないが、戸外遊びを増やしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は職員の専門性が適切であると評価しているが、職員間に専門性のばらつきがある。 ・清水南保育所や近隣の公園に出かけて活動しているが、保護者に周知できていない
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初、施設目標とその目標達成のための方法を設定し、振り返りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所全体で統一した支援に取り組むにあたり、職員の情報共有、特性の理解等の研修が足りているとは言えない。緊急に職員間の情報共有の在り方を検討し、改善すべき。
適切な支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントを行ったうえで、児童発達支援計画を作成している。 ・支援計画に沿った支援に取り組んでいる。 ・スケジュールを組み立てなおし、充実した時間を過ごせるようにしている。 ・よこはま発達クリニック佐々木先生のコンサルテーションを1か月に1回受けることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通園を渋る利用児に対し、より個別的な配慮が必要である。 ・支援計画に沿った個別活動に取り組んでいるが、集団活動について、その内容、利用児の参加の仕方について検討（個別的な配慮）が必要。
関係機関や保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・市町の保健センターや福祉課等と連携し、情報共有している。 ・地域の方から、畑作業のお誘いを受け、活動に取り組んでいる ・就学先と情報連絡会を行っている。 ・児童発達支援から幼稚園・保育園に移行する際、関係機関、行政の担当課と情報共有し連携をしている。 ・自立支援協議会の子育て部会に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園での行事等の掲示物は掲示しているが、周知できているとは言えない。 ・施設内での対応についての説明はしているが、家庭での対応方法について伝えることができていない。
保護者への説明責任等	<ul style="list-style-type: none"> ・初回利用の前に保護者に運営規定、重要事項説明書の内容を説明している。 ・児童発達支援計画作成、評価の際に保護者と面談を行い、保護者の同意を得ている。 ・年3回の面談以外にも面談が随時可能であることをお知らせしている。 ・8月よりクラスだよりを発行している。 ・スケジュール、活動のねらいや課題を書面で配布している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入職した職員についてのお知らせはあるが、退職した職員についてのお知らせがない。→今後は退職する職員についても可能な限りでお知らせしていく。 ・活動時間の様子について知りたい。
非常時等の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・9月、緊急時対応について書面で配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応について、書面で配布しただけなので、今後は個人面談の場で説明し、周知していく。



分析検討してみた事業所の強み	分析検討してみた事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・「意味のある時間」を過ごすためのスケジュールがある。 ・コンサルテーションで定期的に学ぶ機会がある。 ・関係機関との連携、情報共有ができています。 ・協力的な保護者が多い。 ・職員に意欲がある。 ・近隣に協力的な方々がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の再構造化。 ・各家庭の実状に合った「家族支援」を提案し、具体的な手立てを伝える。 ・緊急時対応マニュアルを作成し、配布したものの、各家庭、職員全員に周知できているとはいいがたい。 ・職員の専門性、支援の質を高めるために、職員研修、職員ミーティングの開催の在り方を検討することが急務。 ・日々の活動をどう伝えるか、現状のクラスだよりの内容の充実を図る必要がある。

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の構造化→アセスメントに沿った視覚支援、物理的構造化に取り組み、よりわかりやすい環境を作る。「これでいい」ではなく、「よりわかりやすい」を目指す。 ・家族支援→希望面談、登園時/降園時のやりとりの中で、各家庭のニーズを把握し、問題解決に向けて支援の手立てを提示していく。 ・保護者、職員に、緊急時対応マニュアル、備蓄品、防災用品、訓練内容等の周知を継続していく。 ・緊急時の保護者引き渡し訓練を計画、実施する。 ・職員の研修、ミーティングをどうするか。→①研修と②ミーティングを分けて考える。 ①3か月に1回。全職員を対象に行う（特性理解、アセスメント等）②クラス担当ミーティング（常勤職員）を1か月に1回行う。 ・クラスだよりの充実→保護者の方も「見てわかる」「子どもさんと共感できる」紙面を目指す。

自己評価を行った事業所としての感想など
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方々とのやり取りの不十分さを強く感じた。こちらから、積極的に保護者の方々に話しかけ、今、困っていること、不安なこと、知りたいと思っていること等を引き出していきたい。 ・職員の質の向上については永遠のテーマかもしれないが、研修計画を立案し、計画に沿った研修を実施し、より質の高い支援を提供できる事業所を目指したい。

来年度の施設目標	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応の保護者・職員への周知 ・保護者に伝わるクラスだよりの作成 ・職員研修、ミーティングを充実させ、支援の質を高める
----------	--